

 道程	西東京市立ひばりが丘中学校 第3学年 第12号 令和7年5月31日発行
---	--

雨の運動会の前日は、体育館での練習になりました。その中で明日に向けて学年だけでなく、全校で気をいれましたが、運動会当日も結局順延になってしまいました。気持ちが高ぶっていただけに残念でした。当日は7時の段階では、予定通りの予定だったので、体育行事委員をはじめ、係の人たちが集まっていたので、さらに残念だったと思います。また、延期になったので、放課後にテントの片づけをする時に部活終わりのバスケットボール部と野球部の人を手伝ってくれました。たくさんの人たちの支えられている運動会です。うまくいくことを願っています。

今回は修学旅行のC組の作文を紹介します。



「修学旅行を通して」

C組

今回の修学旅行では、奈良と京都に訪れ、たくさんの貴重な体験をすることができました。

1日目は民家ステイを行い、普段の旅行では味わえないような温かい交流を体験しました。初めて会うホストファミリーの方々と過ごすことに少し緊張していましたが、時間がたつにつれて打ち解けて、まるで本当の家族のように接することができました。一緒にご飯を作ったり、地域のことを教えてもらったりして、お互いに協力し合うことの大切さや人とのつながりの温かさを感じました。

2日目と3日目には、奈良と京都の歴史ある寺社や建物を見学しました。奈良では東大寺の大仏の迫力に圧倒され、京都では金閣寺の美しさに心を打たれました。教科書で見ていた風景を実際に目にすることで、日本の文化や歴史をより深く学ぶことができました。また、班行動では班員や友達と助け合いながら行動し、協力することの大切さを改めて実感しました。計画通りに進めるのか不安の中も声を掛け合い、支え合うことで乗り越えることができました。

今回の経験を通して得た、お互いに支え合う、協力し合う姿勢や、困ったときに声を掛け合って乗り越える力は、今後の学校生活や将来の社会の中でも必ず役立つと感じました。人との関わりの中で成長できたこの修学旅行の思い出をこれからも大切にしていきたいです。

「最高の思い出」

C 組

私は修学旅行の前日準備に追われていた。小さいほうのバックに荷物を詰めながら私は考えていた。最高の思い出とは、どのようなものなのだろうか。

当日私はとても緊張していた。何か足りなかったらどうしよう。お金が無くなってしまったらどうしよう。頭では楽しみたいと思っけていてもついつい不安な思考になってしまっていた。そんな思考のまま時間が過ぎていった。しかし、そんな気持ちは新幹線で一気に変わっていくことになる。新幹線、私は全て寝ようと考えていた。しかし、気づくと席が反転していて2名の友だちと向かい合っていた。「何する？」と元気に話す友達に私も自然と笑顔になっていた。みんなで様々なカードゲームをしていく中で、私の顔は爆笑の笑みに変わっていった。この新幹線をきっかけに、私の不安と緊張は、心から完全に無くなっていた。

そして、いよいよ待ちに待った民家ステイがやってきた。私は心に期待と興奮をもちつつ臨んだ。私たちが1日過ごした民家は、翌日の集合場所から一番遠い場所にあった。遠いということもあり、必然的に起きるのも早くなった。最初は起きることを重視していたが、次第に楽しむことを優先するようになっていった。結果、疲労は少したまりつつも楽しく民家ステイを終えた。そしてホテルの美味しい食事、広い部屋、優しいホテルの案内人の方たち、様々な良い条件が重なり、ホテル生活も楽しく終えることができた。

3日間が終わり、私はまた最高の思い出について考えた。私が考えた最高の思い出とは、一人で楽しもうとするのではなく、常に友達と楽しみ、時には羽目を外して楽しむことだと感じた。たくさんの人に支えられて最高の思い出になった修学旅行。私は一生分の楽しいことをここで使った気がした。

